

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2018年3月3日～2018年3月9日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円やカナダ5年国債利回りは上昇しました。

先週は、カナダで雇用統計が発表され、主にパートタイム雇用の増加によって、雇用者数が前回の減少から増加に転じました。また、失業率が5.8%と前回から低下しました。こうした雇用統計の結果や、先日米国が発表した鉄鋼とアルミ製品の輸入に対する関税導入について、NAFTA(北米自由貿易協定)再交渉中のカナダやメキシコは当面除外されることになりカナダ経済への懸念が後退したことなどが、金利やカナダ・ドルの上昇要因となりました。

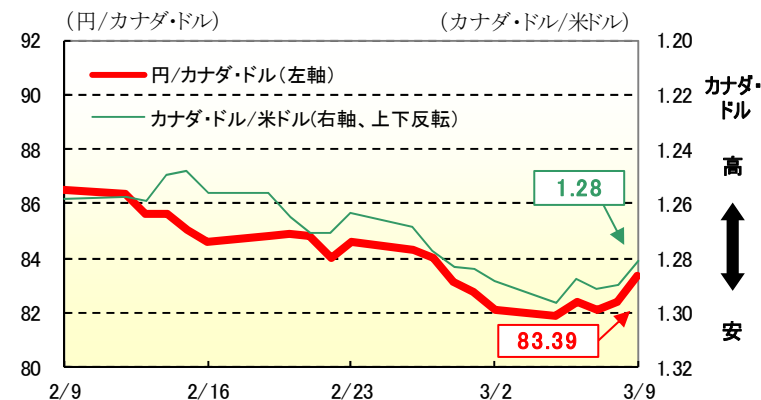
なお、カナダでは政策金利が発表され、事前の予想通り据え置きとなり、市場への影響は限定的でした。

【2】今週の見通し

今週、カナダでは特段重要な経済指標の発表はありません。市場の注目は米国で発表されるCPI(消費者物価指数)に集まりそうです。米国経済の堅調さが確認される結果となれば利上げ期待の高まりにより米国金利の上昇圧力が高まり、それにカナダの金利も連れるとみています。

また、先週、米国と北朝鮮の首脳会談の開催合意が発表されたことや米国の雇用統計が堅調な結果となったことなどを背景に、市場でリスク回避的な姿勢が後退していることは、カナダ・ドルにとって好材料だとみています。

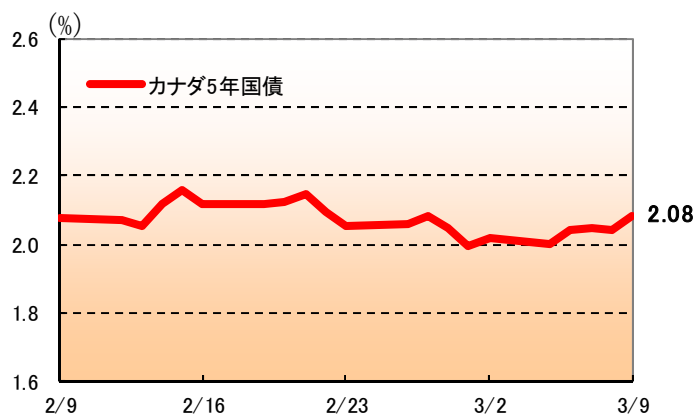
【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年2月9日～2018年3月9日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【カナダ 金利推移】 (2018年2月9日～2018年3月9日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>